

## バイオトイレにIoT ミカサ、レンタル遠隔管理

【大分】ミカサ（大分市、三笠大志社長、097・551・8826）は、IoT（モノのインターネット）を活用した遠隔監視型レンタルトイレ事業に乗組みした。微生物を利用する自社製バイオトイレ（写真）にセンサーを付け、使用回数や処理槽の状況を把握する。メンテナンス回数の削減などの効率的運用につなげる。

福岡県内のマンションギヤラリーに設置し

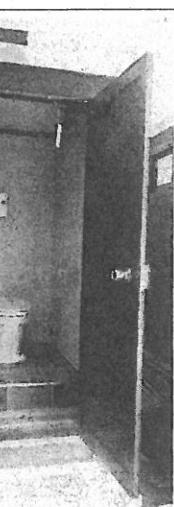
【大分】ミカサ（大分市、三笠大志社長、097・551・8826）は、IoT（モノのインターネット）を活用した遠隔監視型レンタルトイレ事業に乗組みした。微生物を利用する自社製バイオトイレ（写真）にセンサーを付け、使用回数や処理槽の状況を把握する。メンテナンス回数の削減などの効率的運用につなげる。

て運用を始めた。シンキングリード（東京都中央区）が運営する顧客情報管理（CRM）アプリケーションを利

用している。微生物が入る槽の温度などに異常が検知された場合は、借り主に通知する。使

用頻度が多い場合は利用制限をアドバイスするほか、温度の異常に異物の混入などを予測して対処する。

同社のバイオトイレは山奥などの遠隔地に設置することもあり、ミカサは山間地や建設現場でレンタル用のトラブル発生時やメンテナンスにかかる時間



00個ほど貸し出しているほか、累計で約100個の販売実績がある。1日に40回利用で

きる洋式タイプのレンタル料金は1ヶ月で3万7000円。

三笠社長は「将来は微生物が入った槽の管理などの遠隔操作も実現したい」としている。

バイオトイレを常時1